

平成21・22年度 課題研究

# 授業改善を目指した教科リーダーの活動に関する研究

センターかわら版  
No.30  
静岡市教育センター  
H23. 2. 28

## 平成22年度 静岡市教育センター事業報告会が行われました。

日時 平成23年2月7日(月) 13:30～16:30

内容 (1)全体会Ⅰ

①長期研修報告Ⅰ『『望ましい人間関係を形成する能力』の積み上げを目指して』

～ 保幼・小・中の発達段階を考慮した授業実践 ～

平成22年度 長期研修員 静岡市立安倍口小学校 赤田 陽子 教諭

②長期研修報告Ⅱ『小中を貫く連続性をもった音楽指導の在り方』

～ 音楽教育の「連続性」と「適時性」を探る授業実践 ～

平成22年度 長期研修員 静岡市立長田南中学校 南條 美穂 教諭

③課題研究室報告

「授業改善を目指した教科リーダーの活動に関する研究」

④質疑及び意見交換

(2)教科・領域別のポスターセッション報告

教科リーダー提案授業

(3)全体会Ⅱ 指導講評 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 総括研究官 松尾 知明 氏

参加者  
81名



### 課題研究室報告

平成21・22年度に課題研究として進めた「授業改善を目指した教科リーダーの活動に関する研究」について報告しました。



### ＜研究の背景＞

授業改善とは

P (Plan)・・・授業計画

D (Do)・・・授業

C (Check)・・・ふり振り返り

A (Action)・・・改善

事後研

教科リーダーの活動

授業改善を図る場

校内研修 OJT

近隣校研修 Off-JT

教科リーダー研修

幼小中の連携

地域の子どもの課題へ対応

新学習指導要領への対応

教科・領域の専門性を高める

### ＜研究の概要＞

教科リーダーの役割

- ＊授業づくりの伴走者
- ＊質の高い授業の提案者
- ＊学び続ける教員のモデル
- ＊教科・領域のネットワークのつなぎ手

教科リーダーの活動の実際

- ①自校を足がかりにした取組  
→4名の研究員の具体的な取組を紹介
- ②教科・領域ごとの提案授業を公開  
→9～12月に42名の教科リーダーが協力

### ＜成果＞

1 自校を足がかりとした活動から見てきたこと

- ①教科リーダーは、それぞれの立場に応じた活動から周囲の教員の授業改善が可能である。
- ②「つなぐ活動」が周囲の教員の授業改善を巻き起こす。
- ③教科リーダーの活動が機能すると学校が活性化していくことが期待できる。

2 提案授業から見てきたこと

- ①提案授業が本市の目指す授業のモデルとなる。
- ②質の高い授業を参観することは教員の授業改善への意欲を向上させる。
- ③提案授業デザインシートを活用した問題解決型の授業研究はわかりやすい事後研を可能にする。
- ④教科リーダーの活動が機能すると市内の教科のネットワークがつけられる。

### ＜課題＞

- ①教科リーダーの活動の場の設定
- ②教科リーダーの認知度の向上と周辺環境の整備
- ③教科リーダーの育成
- ④全ての教科においての研修の場の保障

報告した詳しい内容は、4月に配付予定の「研究紀要」をご覧ください。

教科・領域別のポスターセッションの様子(8会場)

社会



幼稚園



各教科20分の中で、提案授業研究会の時の説明(成果・課題)と意見交換を行いました。



音楽



算数

指導講評 これからの授業デザインを考える

～ 講話の主な内容 ～

1. 授業改善の取り組みに向けて
2. 目標に準拠した授業づくりと評価のポイント
3. 教師が変わる、子どもが変わる授業デザイン

これからは、一人ひとりの先生が、カリキュラムをデザインする時代になります。カリキュラムとは、「子どもの学び、子どもの学ぶ経験」という意味です。目の前にいる子どもに最も効果のある学びの環境を、いかにつくっていくかという力が重要になります。



子ども理解のストラテジー(一例としてポートフォリオ)とものさし(＝ルーブリック)をもつこともポイントです。

国立教育政策研究所 総括研究官 松尾 知明 氏

### ★★★ 事業報告会アンケートより ★★★

皆様から頂いた貴重なご意見・ご感想やアンケート結果を真摯に受け止め、平成23年度からの研究事業に生かしていきたいと思っております。アンケートに寄せられたご意見の一部を紹介させていただきます。

今回の報告は、授業改善や校内研修の推進に向けて参考になりましたか。

A とても参考になった 66%

B ある程度参考になった 34%



### センター課題研究についての意見・要望等

#### 【一般参加者より】

- 今年度、自分がやってきたこと、来年度やっていくであろうことが、課題研究室報告を聞いてつながりました。教科リーダーの先生方の校内での取組も参考になりました。参加してとてもよかったです。
- 研修をつなぐ大切さを感じた。研修をつなぐとは、校内研修だけでなく、近隣校研修、教科リーダーとのネットワークづくりなど、授業づくりを共同で行っていく大切さを感じました。
- 教科リーダーの定義がより明確になってきたと思います。授業で具体を示すことは、かつての市教研に負けない貴重な研修機会となるはず。問題解決型授業研究、研修をつなぐことの大切さを改めて実感しました。
- 秋に教科リーダーが提案授業研究会にも参加させていただきました。今日の発表の中でもありましたが、提案授業デザインシートを活用した問題解決型の授業研究では、とてもわかりやすい事後研となりました。
- 提案授業デザインシートについても、もう少し理解を深め、取り入れてみたいと思いました。

#### 【教科リーダーより】

- 2年間にこの研究に参加して、教科リーダーの校内研修での役割がはっきり見えてきました。中心となって授業改善していくことで、校内研修を活性化できるようにつとめていきたいです。
- 教科リーダーの活躍する場面を意図的につくってもらえると、ありがたいなと思いました。
- 「つなぐ研修」が学校の授業活性化につながるということが、よくわかりました。
- 年に何回か発行されるセンターかわら版を楽しみにしています。市内の実践がよくわかります。
- 市が目指す教科の授業を同じ教科の先生方と研修し、実践できたことは、今後の活動にも自信をもって生かしていくことができます。教科リーダーの認知度を高め、中心授業では、より多くの先生方に参観していただけるようになると思います。



#### 《あとがき》

2年間に渡る研究の結果、教科リーダーの活動が機能すると、至る所で授業改善が巻き起こることが明らかになってきました。今後、教科リーダーを活用した研修が市内に定着していくことができるように、平成23・24年度は「授業改善を目指した教科リーダーのシステム化に関する研究」を進めていきたいと思っております。今回の研究を進めるにあたってお力添えをいただいた4名の研究員をはじめ、ご協力いただいた多くの関係者の皆様方、本当にありがとうございました。